



東日本大震災以降、神戸から毎月のように石巻に来ています。小さな働きしかできていません。なぜ続いているのでしょうか。東日本大震災が発生、神戸国際支縁機構に所属する学生たちが3日目からボランティアの準備をしました。新聞を読んだ人たちから、支縁物資が支縁機構の事務所に届きました。事務所がある団地の周囲はどりでのよう物資で山積みになりました。兵庫県で私たちに最初の緊急車両の通行許可がおりました。ストップ10台と燃料などを車両2台に積み込み出発しました。

3月20日、最初に訪問した石巻市山下町の斎藤病院には医療物資を届けました。厳寒の外の仮設便所に、雪の舞う中、パジャマ姿で並んで待つ患者はお氣の毒でした。救急車が運び込んだ方は、悪路を3分以上も搖られて絶命しておられました。そこはながら野戦病院でした。

いわむら・よしおさん 一般社団法人神戸国際支縁機構会長。1948年11月、東京都生まれ。宗教歴を経て、95年以降神戸国際キリスト教会牧師

## つつじ野

## 原点は石巻 (上)

いました。しかし、運ぶマンパワーがありません。「住民に石油があること、絶対に見せてはダメ」と何度もぐぎをさされました。パニックが起るからと言われました。孤立した金小学校に石油ストーブを運ぶように言われたものの、地図通りに道はありませんでした。何台も車が積み重なり、がれきが通行を邪魔します。タイヤのパンクに注意しながら、カタツムリのように向かいました。金小学校に最初の緊急車両の通行許可がおりました。ストップ10台と燃料などを車両2台に積み込み出発しました。

避難場所といつても厳寒で、各教室には、暖をとるのが何もなく避難者はがたがたと体を震わしておられました。3階から上での生活は避難する水機能が止まっていたからです。3月20日、最初に訪問した石巻市山下町の斎藤病院には医療物資を届けました。厳寒の外の仮設便所に、雪の舞う中、パジャマ姿で並んで待つ患者はお氣の毒でした。救急車が運び込んだ方は、悪路を3分以上も搖られて絶命しておられました。そこはながら野戦病院でした。

(岩村 義雄)

いわむら・よしおさん 一般社団法人神戸国際支縁機構会長。1948年11月、東京都生まれ。宗教歴を経て、95年以降神戸国際キリスト教会牧師

2017年(平成29年)10月9日(月曜日)

## つつじ野

## 原点は石巻 (中)

「在日朝鮮人宋神道さんは無事だろうか」と私は安否確認のため女川町に向かっていました。彼女の生涯を描いた映画「オレの心は負けてない」の印象が大きかったです。しかし、目的地は変わった。

渡波小学校の避難所には一時、「ここ放つておいていいですか」と神戸国際支縁機構に所属する山本智也君たち(当時21歳)の声が上がりました。国道398号も土で覆われ、アスファルトが見えません。セブンイレブンのキヤツシユレジも荒らされています。七十七銀行渡波支店も高いフェンスでガードされたばかりでした。

渡波に住む知人の佐藤金一郎さんが自主防衛の自宅付近を歩いておられるのを見にしました。渡波地区に住む2万1000人のうち90%が津波から「てんでんこ」に逃げたそうです。腰の部分まで冷たい海水につかりながら、ひたら雪の舞う中での逃避行を耳にしました。津波の牙が襲い、1階がズドンとがらんになってしま

つた家が点在しています。渡波で最初にがれき撤去の作業を始めます。ライフラインの回復に必要な電気、ガス、水道関係の車両が通れるようにするためでした。渡波小学校の避難所には一時は3000人近くが押し寄せていました。障がい者手帳を持つ人々が止まっていたからです。不眠不休の校長、先生たちは自分で感謝されました。神戸の学生たちの心は変わり始めました。

岩村 義雄  
神戸国際支縁機構会長  
神戸市垂水区

復旧、復興、再建は外見より「この復興」が鍵です。そのように気付いた参加者の人生觀は変わつただけでなく、進路も変わりました。薬剤師は国境なき医師団に加入了。建築会社勤務の方は看護師に。山本君は大学卒業後、福祉関係へとボランティアを継続しながら生き方を選ぶように被災地が変えたのです。

# 石巻やほく

2017年(平成29年)10月17日(火曜日)

今月、第79回目の東北ボランティアに訪問させていただきます。6年間、農・林・漁業、沿道整備、傾聴ボランティアに仕てきました。「しゃべりより現場での実践」に徹し、ゲリラのように動いてきました。

家、ご家族、仕事を失った被災者には痛み、苦しみ、怒り、くやしさがあります。戸別訪問で最初は「だいじょうぶだべー」と必ずおっしゃいました。しかし、阪神淡路大震災を体験した神戸の地がらまだ生まれていなかつた、あるいは当時幼かつた者が「3・11の時、どんな体験をなさいましたか」と被災者に尋ねます。

すると「てんでんこ」の地獄の体験についてご近所、家族のどちらにも話したことがなかつた心の濱井れを吐露されます。よそ者だからかもしれません。自分の父親くらいの被災者が独り暮らし。「オレだけ残して、なぜ死んだのか」とうぶやかれます。奥にはビルの空き缶が山積み。コンビニ弁当の殻がいっぱい。ごみ屋敷みたいにな

## つつじ野

## 原点は石巻

長  
神戸市垂水区  
(岩村義雄 神戸国際支縁機構会  
長  
神戸市垂水区

つています。朝早く起きないため、ごみ出しに間に合いません。

被災者に接した若者たちは価値観が変わります。「いのちとは何か」「不条理な死」などを考えさせられ、他者のために生きるという意識が芽生えます。子どもの時から、学校教育、家庭で、社会で人に思いやりをとか、教えられていてもいじめや自殺などの問題もなかなか解決できません。

しかし、若者たちは1回限りの人生を有益に用いたいと動機づけが与えられました。自然災害で親を失つた孤児や夫を失つた独身女性、難民のために時間、体力、交通費を用いるようになります。波水害、熊本地震、九州北部豪雨にもまつ先に「炊き出し」に駆け付けました。

石巻の人々も、海外の孤児たために「カヨ子基金」で応援してくれます。世界に出て行くように育ててくれました。石巻の人々に感謝しています。

2017年(平成29年)10月24日(火曜日)

神戸の若者は被災者と「共生」するようになりました。

復興予算でお金をばらまけば、ハコモノをはじめ、水産の都が復活するかのような先入主がありま

す。  
渡波3丁目の阿部捷一さん、夫妻も学生たちを息子や娘のように毎回待ち受けてくださいました。

現在、機構の指導者である村上裕隆君は引きこもりでした。1軒ずつ噴霧器を持って便所などに衛生散布をしました。戸別訪問が怖かった20歳の時です。

人としての務めを果たすと同時に、胸をなで下ろすのと同じで生活においてもお金さえ出せば自分は人間としての務めを果たしたとが与えられました。自然災害で親を失つた孤児や夫を失つた独身女性、難民のために時間、体力、交渉費用を用いるようになります。

明治維新以降、モノで解決する価値観は全ての日本人に共通するアキレス腱です。老後の生活、夫婦の円満な関係、子どもや家庭生活においてもお金さえ出せば自分で解決できません。

政治家が自分たちの働きは庶民と異なり、すみ分けとして財政で解決を図ろうとするなら、心もとない姿勢です。

どのボランティア団体もドロ出しがれき処理、たたみ替えなど

## つつじ野

## 共生

長  
神戸市垂水区  
(岩村義雄 神戸国際支縁機構会  
長  
神戸市垂水区

の作業に黙々と取り組みました。神戸の若者たちは石巻の人たちと一緒に生きるようになりました。新たな家族が生まれたのです。

それ以来、彼は27歳の現在まで毎月のように石巻に片道15時間かけて通っています。

感情移入の糸口が紡ぎ出されました。織りなす「縁」ができました。神戸の若者たちは石巻の人たちと一緒に生きるようになりました。